



## 「あいさつ」ってなぜするの？

校長 今福 眞和

運動会での大きな声援と拍手、ありがとうございました。子どもたちは皆、一番の演技で頑張りました。保護者の皆様のボランティアのご協力もあり、みんなで創り上げた運動会になったと思います。

今月は「あいさつ」についてのお話です。ある学級に、担任の先生の代わりに授業に入った時の事です。プリントを配ると「ありがとうございます」と声が返ってきます。全体で「さようなら」のあいさつをした後も、教室を出て行く子どもたちが一人一人「校長先生、さようなら」とあいさつをしていきます。こちらでも「さようなら、また明日！」とあいさつを返します。実はこの学級の担任の先生から「うちの学級の子どもたちは、最近あいさつがとてもよくなっています。」と聞いていた学級でした。「どうしてよくなったか聞きたいですね。」と言うと、「毎日子どもたちがあいさつをしてくれると、先生もすごくいい気持ちになります。元気をもらえます。どうもありがとう。」という言葉を実日返していたということでした。

学校ではよく「あいさつはとても大切です。」という話をします。いつか全校朝会で子どもたちに話したことがあります。が、そもそも人はどうしてあいさつをするのでしょうか。諸説いろいろとあると思いますが、私がとてもいいなと思っている説は「敵ではない、仲間なんだよということを確認する意味がある。」というものです。世界でもさまざまなあいさつがあります。言葉だったり、お辞儀や握手だったり、ハグだったり、すべては「仲間なんだよ」と確認する意味であると考えれば納得できます。そう考えるとあいさつをしなくても、あいさつを返してくれない人がいたら、さびしい気持ちになりますね。

私自身も、毎朝校門に立って子どもたちとあいさつをしていると、とても元気をもらえます。月曜日の朝など、1週間分のパワーが充電されていくようです。「おはようございます！」とにかく笑顔で元気なあいさつをする子がいます。「校長先生、おはようございます」立ち止まってお辞儀をしながら、丁寧なあいさつができる子もいます。寝起きが悪かったのか、うつむいて歩いて来る子に「おはようございます」と声をかけると「おはようございます・・・」と、とても小さな声であいさつを返してくる子もいます。これも「仲間なんだよ」という観点で見れば、しっかりあいさつを返してくれたということになります。

校門前のあいさつは子どもたちだけではなく、保護者の方や地域の方や卒業生など、みんながあいさつをしてくれます。先生や主事さん方も校長室の前を通ると「おはようございます！」と、とても気持ちのよいあいさつをしてくれます。カバンをもって出張に行くときに、校庭で体育の授業をしている子どもたちが「いってらっしゃい」、帰ってくると「おかえりなさい」の声をかけてくれます。通勤途中など、学校の外で会った時も、多くの子どもたちや保護者・地域の皆様が「こんにちは」「さようなら」のあいさつをしてくれます。どのあいさつも、みんなとても嬉しいです。気分がとても明るくなります。

あいさつの気持ちよさを感じている人は、自然とあいさつが身に付いていくのだと思います。「仲間と共に、楽しい一日を過ごそうね。」という思いを込めて、今日もあいさつをしていきたいと思っています。